2020 年 08 月 17 日〔No.49〕
筑波研究学園都市研究機関労働組合協議会（学研労協）http://gkn-rkyo.sakura.ne.jp/

学研労協 NEWS ニュース

五十嵐つくば市長との懇談会を開催

コロナ禍の中、まだ梅雨の明けきらぬ 7 月 25 日に、「新しいつくばを創る市民の会（市民の会）」の主催で、五十嵐つくば市長との懇談会が市役所コミュニティ棟で開かれ、参加者35名、主催者含め計39名で、学研労協からも 3 名参加し懇談してきました。

コロナの影響で、市長と語るタウンミーティングも中止になっているので、参加者の要望・質問に直接答える貴重な時間になりました。

市民の会代表山本氏の開会挨拶の後、市長から、「つくば市の取り組みについて」と題するスライドを使って、市長就任後選挙で公約した事を 6 つの柱にし、取り組んで来たことの紹介がありました。2016 年度から、「年度計画、実施、結果の検討」を行い、9 月に「総まとめ版」を出す予定とのことで、業務改革の基本として「無駄な事は止める」ことに取り組んできたそうです。

1. つくば市の行政改革については、3日間要していた「議会準備」を市長等が事前に読むことにより、2 時間に、出張などの際の市長見送りの廃止、年間 1 億円が必要だった東京事務所の廃止、単純事務にロボットの活用、地区やテーマ毎でのタウンミーティングの開催、6 つの「地区相談センター」設置等を行いました。

2. 頼れる福祉については、高齢者が元気に過ごせるように、6 箇所の地域包括支援センターを設置、サロン的な活動である「高齢者いこいの広場」への補助、特別支援員の増員、包括的な社会造作りとして、「障害者スポーツ」「アートの体験」等の取り組みを行いました。

3. 安心の子育てについては、保育所の増設による定員増、公立保育所の整備として耐震基準が満たされていなかった北条保育所の改築、予防摂取の補助、教育環境の整備、令和 2 年 3 月に、「子供の幸せ」を中心とする「教育大綱」の策定、子供の未来支援　就学援助を受けている児童への支援のため、「青い羽根基金」の設置、「みんなの食堂（子ども食堂）」への支援等に取り組みました。

4. 便利なインフラ整備については、つくバスのルート変更などの公共交通の改善を行いはじめて、満足度が増え、不満度が減ったそうです。また、稲作への影響から設置していなかった「リンリンロード」に、影響の無い「防犯灯」を人感センサー付きで設置、市内防犯灯の LED 化を行いました。

5. 活気ある地域については、若手就農者の勉強会を開催、「地産地消ガイドライン」と「地産地消レストラン」の認定、「Farm to Table」の認定証を交付して農業振興を図りました。

また、地元企業の育成のため建設業界には「地元に本社がある企業優先の入札制度」を取り入れ、起業家支援のために「つくばスタートアップパーク」を開設しました。

6. ほこれるまちについては、中心市街地をつくば市全体の中心基地として、都市機能の拠点を作り、雇用を創ること、周辺市街地は地域の人が考え、よく署が支援する方針で、地区ごとに活性化協議会が設置され活動が拡大しています。

つくば市は、人口増により、税収は増えていますが、「人口増にともなうサービス増に必要な経費」増の方が多く、雇用が増えなければ、財政は成り立たちません。持続可能な社会を目指して、つくば市で「持続可能な都市ビジョン 2030 年」の冊子を市役所の若手の人が作ったとのことです。

限られ時間でしたが、質問への回答を含め、市長になって以降の取り組みを理解する有益な場でした。